

## 学校池改修工事

○ 期 間 令和2年10月5日（月）～10月23日（金）

○ 取組の概要

昭和中央小学校の中庭には、古くからの池があるが、ヘドロ化しており、かなりの深さがあることもあり、木製の柵で囲まれていた。この柵も朽ちてきており、児童が近寄ることは難しい状況にあった。そこで、今年度、創立50周年にあたることを受け、学校環境緑化モデル事業として、学校池をビオトープへと改修する計画が立てられた。森林ファンド助成金と自己資金（PTA会計の環境整備費より）を合わせ、梶岡L.A.様のご協力により、池の改修工事が行われた。この改修工事の取組は、ビオトープの愛称を全校児童が投票で決めたり、6年生児童を中心に植樹やメダカ等の救出から放流に携わったり等、児童が自分たちの学校池への愛着が感じられるように進められた。今後、さらに、児童はより親しみをもって自然観察をしたり、理科や生活科の学習に活用したりできるものと期待している。

### 【 改修前 】



▲柵に囲まれた以前の池。児童は中をのぞけない。



▲全景。飛び石が見えるも、歩くことはない。



▲噴水のあった名残が見える。ヘドロ状のものがたまっている。



## みんなで池の名前を決めよう



児童会執行部が「みんなで、生まれ変わる学校池（ビオトープ）の名前を決めよう。」と全校児童に提案。その後、代表委員会で、案を絞り、1年生から6年生まで、全ての児童による投票で「めだかの学校」に決まった。

※ 投票箱は、呉市選挙管理委員会から本物を借り、体育館入り口を投票所にして実施した。

### ◆メダカたちの救出

10月に入り、昼休憩を使って、着工前の池に棲んでいる生き物たちの救出を行った。理科専科の教員の声かけの元、勇志が網を使って生き物を救出した。メダカ、フナなどがたくさん救出された。残念ながら、工事後の池の生態系のことを考えて、メダカを残し、フナは自然に帰すこととした。

## 【 改修中 】

### ◆ 着工:令和2年10月5日(月)



### ◆ 6年生児童による植樹:令和2年10月21日(水) 6校時



池の改修デザインなどを考えてくださった梶岡L.A.の山本信男様のご指導により、6年生児童が池（ビオトープ）の外周にドウダンツツジを植えた。

## 【 改修後 】

### 「めだかの学校」完成式

令和2年10月23日（金）8：40～9：20

10月23日（金）3密を避けるため、来賓は施工者の山本信男様（梶岡L.A.）と佐々木仁様（PTA会長）のみとし、全校児童参加のもと、行った。池のまわりや、池の周りを見下ろすことのできる第1校舎2階、3階の開放廊下に全校児童が並び、式に参加した。式の中では、環境緑化事業の説明、6年生代表児童による仕上げの記念植樹、各学年代表児童によるメダカの放流などが行われた。式後、児童が書いた感想文の中には、「とてもきれいな池でした。まわりには6年生さんがうえてくれた木や花がありました。池のことがすきになりました。池の生きものをかんさつするたのしみがふえてうれしいです。これからも池を大切にしていきたいです。」「自然に近いビオトープにすることができて、今では私たちの自慢です」「昭和中央小学校の歴史を守り、引き継いでいきたいと言う気持ちが一層強くなった。」など、学校池（ビオトープ）に対する愛着が増したことや、学校全体で取り組む気運による達成感、愛校心が高まった様子がうかがえるものが多くあった。

### 「めだかの学校」完成式

#### ～環境緑化モデル事業～

#### ○内 容

- ① 開式のことば
- ② 学校長あいさつ
- ③ 学校環境緑化事業の説明
- ④ 来賓あいさつ（PTA会長：佐々木仁様）
- ⑤ 来賓紹介
- ⑥ 祝辞（県緑化、ローソン基金）
- ⑦ 児童代表あいさつ
- ⑧ 記念植樹
- ⑨ メダカの放流
- ⑩ 閉式のことば



創立50周年記念事業「生き物あふれるビオトープ」

### “めだかの学校”

「めだかの学校」は、学校の縁を介し、子どもたちが生き物観察をするために、公益社団法人 日本緑化推進機構からの助成によりつくられています。

この助成金は、全国のローソンにある「緑の募金箱」へのお客様からのたくさんの募金で成り立っています。

（販売している募金箱は）

- ・トワマンカツリ
- ・ヒベカ1カリシオム
- ・シキシーワ
- ・アムスシ
- ・モリガサ
- ・カキツバタ
- ・キアケイランソウ
- ・スイレン

令和2年10月 梶岡L.A. 昭和中央小学校